

枚方市駅周辺再整備

まちづくりの
詳細はこちら

枚方市駅周辺の再整備にあたっては、まちの活動を停めることなく進める必要があるため、国、大阪府、枚方市の公有地や民有地を最適利用し、限られた土地の中で、機能移転をしながら順番に整備を行っていく、連鎖型まちづくりを進めることで、まちの魅力や行政サービスの利便性などの向上を図っていきます。

■枚方市駅周辺でめざしているまち

枚方市駅周辺のまちの将来像

再発進 ひらかた

人が主役の「ゆとり」と「賑わい」のまちへ

《まちづくりの方向性》

- 多様なニーズに応え、様々な人が活躍でき、居心地よく過ごすことができる
- 人が主役の市駅周辺まちづくりを実現

【ゆとりと賑わいづくりに向けて】

- **ゆとり** ⇨ 安心：安全に生活できる街（防災、防犯）
⇨ 快適：居心地が良い、楽しく過ごせる街（都市環境、バリアフリー）
- **賑わい** ⇨ 魅力：訪れたい、働きたい、学びたい、住みたい街（都市機能更新、ストック活用）

エリアのイメージ、事業手法など

①街区	民間共同建替えなど
②街区	枚方市駅（南口）駅前広場の整備とあわせた市街地再開発事業（再々開発）など
③街区	枚方市駅（北口）駅前広場の整備とあわせた市街地再開発事業
④⑤街区	土地区画整理事業・新庁舎の整備など

■③街区のまちづくりについて

市街地再開発事業

本地域においては、枚方市駅周辺再整備ビジョンに基づき都市機能の集積・更新や市駅北口の交通環境の大幅な改善を図り、賑わいの創出や魅力を高めることで、定住や交流を促進するとともに、駅南側を含めた連鎖型まちづくりのトリガーとなる事業として進めていきます。

駅前交通広場等の公共施設の整備、土地の高度利用や歩行者回遊動線の形成等を行うことで、交通結節点機能の強化、多様な都市機能の集積、都市居住の誘導、防災機能の強化、ウォーカブルなまちの形成、新たな人流の創出など、まち全体の魅力向上を図ります。

枚方市駅前行政サービスの再編

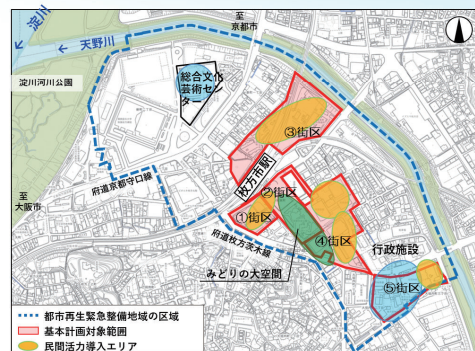
<令和6年9月17日供用開始>

枚方市駅前の利便性を活かし、従前に実施していた行政サービスを安定的に継続するとともに、公共施設マネジメントの推進などの観点や財政状況を踏まえながら、新庁舎整備と連携し、各種施設が抱える課題解決や枚方市駅周辺の魅力、行政サービスの質、市民の安全性・利便性の向上等を図ることを目的に実施しました。

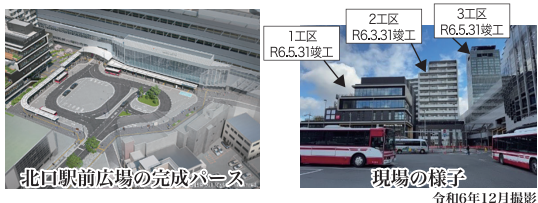
図書館と生涯学習交流センターの機能連携に加え、市民窓口の機能拡充、子ども・子育て・高齢者への支援などの各種機能、複合施設内の民間施設もあわせて効果的に連携を図ることで、高齢者をはじめ、妊娠期から子育て期に至る行政サービスを一体となって提供する拠点として整備しました。



連鎖型まちづくりのイメージ



市駅周辺再整備エリアイメージ

STATIONHILL HIRAKATA
ステーションヒル枚方

■これからのまちづくり

④⑤街区のまちづくり

ニッパーク岡東中央や庁舎等の市有財産を有効活用して機能をさらに高めることで、みどりの大空間や、幅広い世代が集い・つながり、様々なイノベーションを創出し、周辺の街区や地域と連携しながら多くの魅力に彩られた都市機能を集積・進化させることにより、多くの人がワクワクし、Well-being（幸福度）が高まるまちを目指しています。

②街区のまちづくり

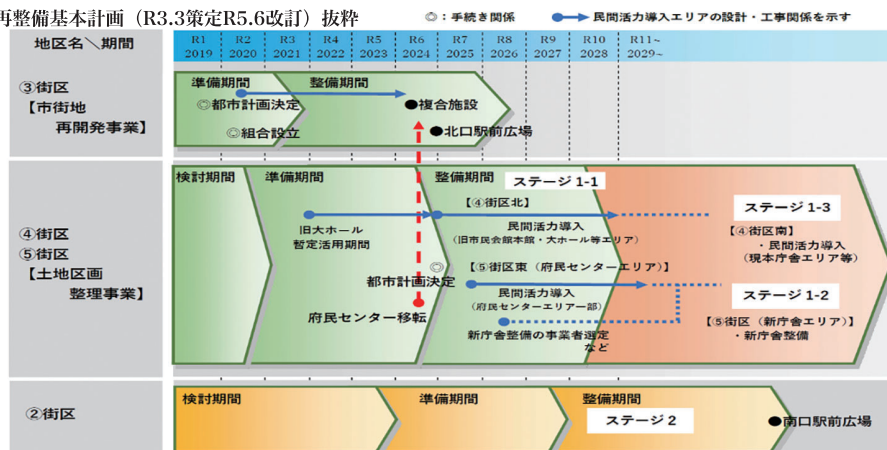
枚方市駅（南口）駅前広場を含む②街区では、ウォーカブルなまちの実現のため、駅前広場への通過交通の抑制や、ニッパーク岡東中央と連続した大空間の確保などにより必要となる駅前広場の拡充を目指します。

事業手法については、権利者の生活再建の意向を考慮して、市街地再開発事業を想定しており、権利者の機運の醸成を図りながら、事業化に向け取り組みます。



■スケジュール

枚方市駅周辺再整備基本計画（R3.3策定R5.6改訂）抜粋



※本市が想定するスケジュールであり、事業実施にあたっては本市の財政状況や権利者の合意形成などにより、事業スケジュールを確定していくことになります。

■今後の取組と期待

④⑤街区においては、駅前から広がるみどりの大空間を形成します。また、それに隣接する複合施設については、民間のノウハウを活用し、魅力を高める多様な機能の集積を図ります。これらを連携させることで、歩きたくなる賑わいのある空間形成を目指します。

さらに、整備後においても公民が連携したエリアマネジメントにより、継続的に地域の魅力や価値を高め、再整備の対象区域だけでなく周辺へ相乗効果を高めていくなど、市内外からの交流人口を増加させ、地域活動が発展していくことを期待しています。